

Radio On The Street
西谷文和

2022.11.14
第14号

路上のラジオ

ファンクラブニュース

発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。

●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YOU TUBEで聞けます。チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。

統一教会の闇 安倍政治の闇

標記の題名で、またまた拙著を刊行する。反対を押し切って強行した国葬、自民党とズブズブの関係を築き、数多くの被害を生み出してでもなお、カルト団体として生き残る統一教会。次々と明るみになる東京五輪疑惑。支持率激減の岸田内閣は「新しい資本主義」といながら、息子を総理秘書官に任命するという、「縁故資本主義」だった。これら一連の出来事を鈴木エイト、左藤章、内田樹、佐高信、前川喜平氏らとラジオで対談してきたが、これを文字にしたものである。ここではその一部を紹介したい。

(前略)

佐高 原敬っているでしょ、平民宰相の。「平民宰相・原敬伝説」という名著を、私は書いてるんだけど。——そんな本、書いてはったんですか。なんか作家みたいやな(笑)。

佐高 作家なの。原敬がやはり刺さ



れて倒れるんだ、1001年前に。その頃ははつきりした国葬令がなかったと思うんだけど、天皇の内意として「国葬はどうか」と、伝わってきたんです、奥さんに。

——この時期からテロが流行っているんですね。

佐高 それで奥さんが断るんだ。

——国葬を断った？

佐高 死んだら、人間、平等です。

——それ、いい言葉ですね。

佐高 今、いい言葉やなーって言うてくれたから、調子に乗って喋るとね、国葬って、国を弔うんですよ。

——はい、国を弔う、ですね。

佐高 国を葬る、とも読める。

——安倍晋三という人を国葬にすれば、例えば日本国憲法なども葬られちゃう、ということに。

佐高 そう。国葬令がなぜ戦後になくなったのか？国葬なんてものは民主主義、つまり憲法に反するものだから、なくなったわけですよ。

——国民主権。アベ主権じゃないですかね。

佐高 人間は一人ぼっちで生まれて、一人ぼっちで死ぬ。一人ぼっちと一人ぼっちの空間を埋めるために人間が存在する。これ、むのたけじさんの言葉なんです。

——私も佐高さんも友達がないの

で、結構一人ぼっちですけど(笑)。

佐高 私は友達多いよ(笑)。死ぬときに仰々しくやるって、おかしい訳だ。原敬の奥さんが国葬を断ったというのは今こそ特筆されるべきことだね。

——もつと広げていきたい言葉ですね。死ねばみんな平等だ。(後略)

反撃の3年、世直しの3年に

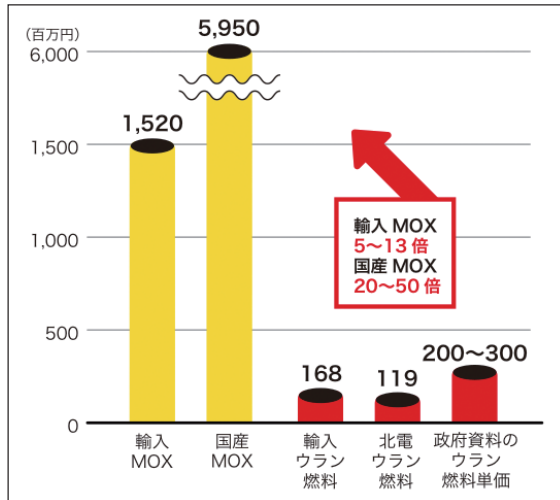
101年前に原敬の妻は国葬を断った。大日本帝国憲法の世ですら、「特別扱いはやめて欲しい」という遺族感情。一方、国民主権であるはずの日本国憲法の下で、特別扱いで強行された国葬。国葬で統一教会問題が消えてしまうのでは？という懸念もあったが、山際大臣が瀬戸際で辞任したように、まだまだこの問題は風化していない。「アベのフタ」が取れた検察は次々と疑惑関連者を逮捕し、背後の政治家に迫ろうとしている。私たち市民も検察を応援し、「アベ政治の中で溜まったウミ」を吐き出してもらおう。岸田政権の「黄金の3年間」を、彼らにとつての「地獄の3年」に変えよう。そして私たちにとつての「反撃の3年」「世直しの3年」にするのだ。

小出先生に聞く その9 最もコストが高く、温暖化を進める原発

原発はCO2を出さない？

— 電力会社は「原発はCO2を出さない」と宣伝しますが、ウランを掘るとき、燃料を加工するときなどでCO2を出しますよね。

小出 はい、ウラン鉱山でも出しますし、原発で燃えるようにするためには濃縮とか加工とか、いろんな工程で大量のCO2を出しています。さらに「死の灰」を10万年、100万年とお守りしようと思えば、一体どれだけのCO2を出すのか、わか



らなくなってしまう。

— 水冷とか空冷とか言ってますが、それも電気を使って管理しているわけですよね。水や空気を回して。フランスはMOX燃料を作っています。日本はプルサーマルを進めています。技術がないのでフランスからMOX燃料を輸入しているのですよね？

小出 MOX燃料というのはウランとプルトニウムを混ぜたものなのですが、これを作る技術が日本にはありません。工場もまだないのでフランスに作ってもらう、日本まで運んでくる、ということをやっています。

とても高くつくプルサーマル

— 普通のウラン燃料棒の値段を1とすると、確かMOX燃料はかなり高価だったような

小出 10倍はくだらないと思います。えっ、そんなに高い？ということはプルサーマルをやればやるほどフランスが儲かって行く？何のメリットもないじゃないですか。

小出 ありません。ただ日本で原発を長い間やってきて、使用済み核燃料の中にプルトニウムが生まれます。これを高速増殖炉という形で

— 「もんじゅ」ですね。

小出 はい。「もんじゅ」に代表される原子炉で、これを燃料にするんだと言ってきたわけです。それでフランスとイギリスに頼んでプルトニウムを取り出してもらったわけですが、このプルトニウムは46トンもあります。これで長崎型原爆を作ると4千発もできてしまう。

— 4千発！

小出 猛烈な量のプルトニウムを作ってしまった。しかし「もんじゅ」は全く動かないままお釈迦になっちゃった。

— そうです、つぶれてしまいました。

小出 こうなると世界は許してくれない。長崎型原爆4千発を作ることができるプルトニウムを日本が持っている。使い道がないまま。世界は日本を平和の国とは思っていません。つい77年前までアジアの国を侵略し

ていた国ということ。それで日本は「使い道のないプルトニウムは持たない」と国際公約をさせられているのです。でも「もんじゅ」は動かない（苦笑）。しょうがないからプルサーマルで使おう、ということにしているのです。しかしMOX燃料はバカ高いし、安全性を犠牲にしないといけないのです。

ガソリン入れた灯油ストーブ

— 普通の原発より危ないイメージがあります。

小出 例えば石油ストーブは灯油を燃やすという前提で設計されています。これにガソリンを混ぜて燃やせば火事になるでしょう。

— 危ない、危ない。(その10に続く)

お知らせとお詫び

前号で10月にウクライナ取材を行う予定と発表しておりましたが、都合により延期しました。ロシアが放射能を撒き散らす「汚い爆弾」を使用し、ウクライナの仕業だ、と宣伝するかもしれません。緊迫した状況ですがこのような暴挙を許さず、戦争をやめろという世論を高めていかないといいけません。どんな戦争もそうですが、始めるのは簡単、終わらせるのが難しいですね。

まだ止められる大阪カジノ 来年4月には「怒りの意思表示」を

21万筆も集まった

「カジノの是非は府民が決める」。
大阪カジノの是非を問う住民投票を
求める署名が、わずか2ヶ月で21万
筆も集まった。大阪府議会は維新、
公明が多数なので、住民投票条例は
否決されたが、「カジノはイヤだ」
という大きな世論が示された。これ
は来年の大阪市長選挙、知事選挙で
「カジノを争点にすれば」市民派の
市長が誕生する可能性がある、とい
うことだ。大阪では維新が圧倒的に
強いし、マスメディアが無理やり作
り上げた「吉村人気」があるので、
知事選挙、市長選挙は戦う前から
「あきらめムード」が漂っている。

都構想と同じことを カジノでも

ここで冷静に考えてみたい。飛ぶ
鳥を落とす勢いだつた橋下徹市長が、
「大阪都構想」をぶち上げて強引に
住民投票に持ち込んだ2015年、
結果はわずかに反対が賛成を上回り、
都構想は頓挫した。組織も金もない

反対派陣営は、文字通り手弁当で勝
手連的に市民運動を繰り広げて、投
票率を約70%まで引き上げて勝利し
た。大阪市民の底力を見せつけた住
民投票だった。同じことを来年の大
阪市長選挙でやるのだ。維新支持者
でも「カジノはイヤだ」と考えてい
る人は多い。つまり、大阪市長選挙
を「カジノの是非を問う住民投票」
のような形、わかりやすい選挙にし
るのだ。市民の側が共闘して「カジ
ノ反対市長候補」を担ぎ出して維新
の候補と対決する。松井が引退する
ので、維新の側も新人だ。

市政全般を左右するカジノ

でも大阪市長選挙はカジノ問題
だけではない。他の政策はどうす
るのだ？

いや、夢洲へのカジノは大阪市を
破産させてしまう。ゴミで埋め立て
た人工島に高層ビルを建てれば必ず
地盤沈下するし、液状化対策を取ら
ねばならない。カジノ業者はそれを
大阪市の負担でやらせるので、夢洲
に億ではなく兆単位の血税がつぎ込

まれてしまう。実際に基本協定書を
読めば「大阪市が負担する」となっ
ている。こんなバカな政策を進めて
しまえば、大阪市は財政破綻。そう
なれば子育て、高齢福祉、国保に中
小企業対策などすべての施策がスト
ップしてしまう。つまり「カジノ反

バカげた政治を 変えるチャンス

対市長」を誕生させないと、孫子の
代まで借金生活が続くのだ。

これは大阪市だけの問題ではない。
アベスガ岸田政治になって、沖縄の
新基地建設、リニア新幹線、札幌五
輪、防衛費の倍増、原発の再稼働に
新規増設などなど、やれば必ず破綻
する施策を強行している。大阪カジ
ノ同様、これらは必ず負の遺産にな
る。来年の統一地方選挙で、このバ
カげた政治を転換させることだ。こ
の秋から冬にかけて円安・物価高で
生活はさらに困窮する。これはアベ
ノミクスの失政が原因だ。にもかか
わらず、財務省に支えられている岸
田政権は、こんな状況でも消費税の
増税を狙っている。

1月21日(土)は みんなで意思表示

いつまでもおとなしくて物分かり
の良い有権者ではダメだ。まずは来
年の4月に「怒りの意思表示」を行
う。そのため、1月21日(土)に路
上のラジオ主催で「カジノ反対市長
を作る大阪の集い」を企画した。近
隣のみなさんには是非直接参加を、
遠隔地の方々にはこの模様をラジオ
で発信するので、ぜひお聞き願いたい。



編集長より



久しぶりにアナログのレコードを聴きました。私は音の世界で生きて来ましたが、いわゆるオーディオマニアではありません。ただそのとき、木目細かな音色、特に弦楽器の美しい響きに、徐々に感動している自分に気が付きました。デジタル的な音にどこか疲れていたのかもしれませんが。

立ち止まって考えてみると、身の回りのものはめまぐるしいスピードで変化し続け、特にデジタル化するものの中には、何か人として抗えない「堅さ」を感じ、葬らざるを得ない「柔らかいもの」があるように思うのです。例えばCDは、1秒間を44,100に分割（サンプリング周波数44.1 kHz）し、音を2進法のデジタル信号に変換します。「0」か「1」で置き換え、無駄な音（人間の耳には聴こえない音など）を高度に割愛していきます。対してアナログは、なだらかな波形を描き、実際には聞こえていない成分をもはらみながら、空気を震わせます。私はそんな音の方が好きだなと思うのです。

無駄を省くといいますが、我々にとって何が必要なのか、大切なのかについては、人それぞれであっていいと思いますし、たとえば善と悪だけの2進法で進めば、世の中は争いの種であふれてしまうことでしょう。そのはざまにある柔らかくて愛おしいもの、穏やかなゆらぎの中にこそ、人としての解決策があるように感じます。

先日、私が教壇に立つ大学の授業のゲストに、西谷文和さんをお呼びしました。その講義の中で、AかBだけではないCという選択肢を常に考えて行きましょう、というお話をしていただきました。人類が利便性を追い求めた結果手に入れた技術で、人工知能が人を殺める残忍な兵器が生まれる。その善悪は言わずもがな、その技術を介護ロボットの活躍にとおっしゃったとき、学生たちも改めて、自分たちは生きるために進化を続けるのだという当たり前のことを感じたと思います。

私たちが仮に後戻りできないところにいたとしても、それでも救いは2者択一ではない、おだやかなゆらぎの中にあると信じたい、と思いながら私は大好きなレコードに針を落としています。

(ディレクター・山本 索)

編集後記

円安と物価高が止まらない。ウクライナ紛争で原油も急騰したため、例えば日本〜ドバイの航空運賃、約13〜14万円程度だったものが今や23〜24万円。10万円以上も値上がりしている。飛行機はオイルサーチャージがかかるので円安&原油高のダブルパンチだ。私は1ドル75円時代にイラクやアフガンで支援活動を始めた。今は150円。日本の支援金をドルに変えて持っていくので、半分に目減りしたということだ。円安と言うが、これは「円弱」ではないか。直接的な原因はもちろん、アベノミクスだ。日銀がじゃぶじゃぶと国債を引き受けたため金利を上げることができない。米国や欧州各国が金利を上げる中、黒田日銀総裁はまだ金融緩和を続けるから、「円だけが独歩安」になっている。不安なのは日米金利差だけではない。テレビやパソコンなどの家電商品では競争に負け、あの東芝でさえもが倒産の危機。トヨタなど自動車部門では電気自動車で出遅れ、今後は世界的シェアを急減させるだろう。かつては先端を走っていた半導体、太陽光パネルも見事に追い抜かれ後塵を拝している。逆も真なりで、世界は原発から脱却しているのに再稼働にこだわって廃棄物処理などの赤字を積み重ねていく。米国製の旧式武器を爆買いし、社会保障を削りながら軍事費だけを倍にする。日本だけが賃金が上がらないので優秀な人材は欧米、中国に流出し、ものづくりの力が減衰する。歴代自民党の悪政が「円弱」を招いたのだ。

どうすればいいのだろう？ 統一教会と世襲ばかりの自民党では、この難局を打開できない。まずは消費税を引き下げ、最低賃金を上げる。消費税を下げた分は大企業、富裕層、株の取引に課税する。こうして中間層の懐を温めつつ、次世代の産業、農業を模索する。地域おこしで景気を回復させ、膨大な借金を少しずつ返済する。気候変動に対処しながら、食料やエネルギーの地産地消を進め、みんなで支え合える「協同組合型」の社会に作り変える。この方向に舵を切るには政権交代しかない。立憲は維新と組んでいる場合ではない。共産、れいわ、社民を中心に新しい核を作る。その共闘に「立憲のまともな議員たち」が参加し、第3極を作る。以上を求めるため、全選挙区に立憲野党の共闘を求める「市民連合」を作り、次の選挙に備える。以上が現時点での私の考案する処方箋だ。「こんな方法もあるよ」「展望のある話を聞きたい。ついてはこのゲストはどうだろう」など、ご意見あればメールか振込用紙に書いて送ってもらえれば幸いです。